



読字 原田 鏡

No. 826

2017/ 4/ 5

日中友好新聞

発行所
日本中国友好協会
YAMAGUCHI WOON TAI PEK
R9711-1-18172013

日中友好協会
岡山支部
〒710-8256
岡山市東区3-8-30 511
TEL:086(272)-3010
郵便番号1100
01250-0-3835

日中友好協会
倉敷支部
〒713-8511
倉敷市連島中央1-8-4
(宮地方)
TEL:FA3(086)446-2711

日中友好協会岡山支部ホームページ
<http://rizhong.biz/>
メールアドレス
rizhong86@hotmail.co.jp



第3回中国百科検定

検定受験者の感想

3月20日、3級試験に参加しました。歴史、地理、政治、経済、食習慣など、いろいろの問題がありました。歴史、各民族の食習慣の問題が一番興味がありました。今度の問題の難易度は普通でした。本を読んで、たくさん知識を得ました。私は楽しかったです。来年は2級試験に参加する機会がありますように。

KY

私は3級の検定に参加しました。監督の先生や受験のみなさんは親切で、雰囲気はとってもいいと思います。問題はちよつと難しかったです。検定のために備えた問題集は役に立ったと思います。次もぜひ参加したいと思いました。

張 浩楠

私は、日本語教室の先生の紹介で、中国百科検定の3級を受験しました。復習の時は検定問題集をやりました。私は中国人なのに、中のたくさん問題がわかりませんでした。

た。でも、問題集をしっかりとやればできると思います。本番では問題集の問題がたくさん出たので簡単にできました。合格できればいいなと思います。次回もやってみたいです。

張 浩然

(浩楠、浩然さんは今春、公立高校合格したばかりの女生徒です。)

3級 67歳 宮本 修

受験勉強を楽しみました。

初めて受験しました。一月前から受験勉強を始め試しに問題集を解いてみると小説や旅で体験した問題は正解ですが、政治経済は怪しく、映画はチンプンカンプン。正解を丸暗ししようとしたのですが記憶できません。名前の読み方が判りません。歴史、土地、人物等知識の繋がりが必要と感じたので受験日の二週間前にテキストを購入し間違え箇所だけ読んで試験に臨みました。出された問題は少しひねってあり自分の知識が怪しい

箇所ではやはり迷いました。受験勉強を通して自分の中国に関する知識が整理され新たな関心も広がりました。知識が増えるのは楽しいですね。

(香川県からの受験)

2級 75歳 片岡淑子

中国が身近になった

一生懸命勉強して試験に挑戦したが、むづかしかった。検定問題集にないのがあった、また、問題集とは出題も同じではなかった。百点を目指したがとても合格するかが問題だ。しかし、よい勉強になりました。中国のテレビを見ていてもきづきが多くなった。歴史も身近なこととして見られるようになった。合格はしなくても毎日勉強という目標があり充実していた。落ちたらまた来年頑張ります。

3級 66歳 緋田 博

勉強になりました。

大変勉強になりました。検定を受けて、力がつきました。中国のことをもっと知りたいと思いました。

3級 76歳 丸山 箕子

中国へただの見学ではなく

文字が読めなくて大変苦労しましたが、少し勉強したくなりました。本を買いましたのでしっかりと読むつもりです。

中国へは何度か行きました。ただの見学でなく、今度は知識を入れていきたいと思えます。

1級 67歳 河井伸士

3級2級は合格ラインが70点なので気楽にとりくめましたが、1級は80点なので緊張した「公式テキスト」中国テキストを読み込んでがんばったが、量が多いので大変だった。しかしおかげで中国への理解がだいぶ深まったと思う。ひきつづき中国関連の知識を仕入れていきたいと思う。

芳田日本語学習講座で

日本料理を学ぶ



大地が春めく、万物がよみがえる。3月17日芳田日本語学習講座の生徒は、日本料理を勉強することにしました。日本料理はさっぱりし、口にあい栄養もあるし、そして体に良いです。前に自分もやっただけあまり美味しくないと感じました。ちょうどこんな機会があればと思っていました。

まず貝吹先生は、みそ汁、おにぎりの材料を



選択する。それからやり方を教えてくれました。

先生は親切に、いろいろな野菜のきり方、炒め方などを教えてくれました。みんな心を込めて聞いてまじめに勉強しました。

小林先生は料理を作るシーンも写真に撮っていました。あとで写真を見るといい思い出になります。最後、一人ひとり料理を作った。貝吹先生の指導でみんなは自分が作った料理を食べる、とても美味しかったです。

ごはんを食べながら、日本料理の体験を歓談しました。先生のおかげで、日本語を勉強するだけでなく、日本料理も学びました。本当にありがとうございました。料理を勉強することがおもしろくて楽しかったです。こういうイベントに参加するのは好きです。次も楽しみにしています。

益田聖子

何曉麗さんを送る会

—何ちゃんとの出会いは私の宝物—

日中岡山支部は、2003年に何ちゃんが中国から岡山大学に、留学して以来の付き合いです。

まずは岡山支部の中国語講座や日中文化講座の講師をお願いしました。文化講座では「中国お国自慢」と題して、出身地である遼寧省丹東の歴史や文化について話してもらいました。

その後は、中国「残留孤児」国賠訴訟をはじめ、中国帰国者を支援する各種の集会で通訳として活躍しました。原告団の聞き取り調査で担当した「孤児」が大森靖宏さんです。

中国帰国者との日中文化交流会では、中国の踊りを披露しました。一方で小生の家で妻からお茶を習うなど日本文化にも触れました。

日中岡山支部の多くの会員は、何ちゃんの向学心に燃え、日本人以上に気遣いできる人柄に感心しました。貝吹さんは、色紙に「何ちゃんとの出会いは、私の一生の宝物です。」と書きました。また大森さんは、お孫さんとの団らんを割いて会いに来てくれ、記念写真を撮りました。

これまで日中友好のための活動に感謝します。東京では健康に気を付け、ご活躍ください。

日中岡山支部

小林軍治

何曉麗さん送別会

3月20日に岡山駅西口の又来軒で何曉麗さんの送別会が開かれました。

何曉麗さんは岡山へ来てから14年になりましたが、4月から東京の江戸川へ行くことになったためです。

参加者は、何さんとお子さん、竹内先生、



則武弁護士、井上さん、貝吹さん、河井夫妻、小林(軍)さん、竹内(袈)さん、林でした。それぞれが食べたものを注文し、食事を楽しみながら思い出を語り、別れを惜しみました。

貝吹さんから中国語を習った出会い、則武弁護士からは中国残留日本人孤児の訴訟にまつわる出来事、井上さんは中国にいたころの思い出などを語り、参加者それぞれが何さんの東京での活躍を祈りました。

林潤

早春の土佐へ行きました

3月22日、23日にかけて、全日本年金者組合岡山県本部主催の高知の歴史を訪ねる旅(参加27人)に行ってきました。午前11時に高知に到着し、現地ガイドさんの案内で龍馬記念館と高知城を見学しました。昼食は鯉のタタキでビールをいただきました。その後、31番札所竹林寺

を見て、宿舍の桂浜荘に入りました。夕食交流会ではみなさん年金組合や国民救援会、新婦人の活動、共謀罪の反対運動とがんばっておられる人ばかりで、自己紹介を含め時間がたりないほどでした。土佐藩は明治維新に倒幕運動に大きな役割をはたしている。只、幕府を倒したけど

天皇制を残したのは失敗だった。第2次世界大戦と森友問題につながっていく。土佐は岡山よりだいぶ早く春が来ていてレンゲの花が咲き、田植えが始まっているところもある。温室ではナスの実がついている。土佐は野菜の産地でもある。最後に寄った西島園芸団地では甘いスイカとメロンをおいしくいただいた。

河井伸士

第4回「孟子」を読む

公孫丑篇(下)

弓田 盛樹

公孫丑篇の後半部分は孟子の斉を去る決意を記しています。孟子が斉を去ることには自分の真意が受け入れられなかったからです。当時のいわゆる諸子百家と言われる知識人たちは、自分の知識を切り売りすることで生計を立てていました。

しかし、孟子の場合は単に自説を説いたわけではなく、天下泰平を実現するという大義を抱いていました。孟子は言います、「500年ごとに天下には必ず王者が現れて、その時代のもっとも優秀な人物が王を支えていた。今は周建国から700年が経った。時勢は王者の出現を待望している。天にはまだ天下を安らかにしようとする意志がないのかもしれない。しかし、今の時点で私以外に誰が王を補佐することができるだろうか」と。

孟子は斉王こそが王者になるにふさわしい人物と考えていただけに、その落胆は大きかったことが伺えると同時に、学問に全てを賭け生きることが当然であるとする孟子のプライドを読み取ることができます。

さて、孟子はなぜ仁義礼節、孝行などを執拗に主張したのでしょうか。それは、当時の中国には現代のように家庭を大切にす価値観がなかったためです。王や諸侯、士大夫にとって男尊女卑は当然のことであり、子どもは家の存続のための附属物にすぎない。こうした社会では、孔子の説いた孝・忠・義・礼は身分制度を維持するために都合のいいものでしかありません。

当時の社会へのアンチテーゼが孟子の教説であり、また明らかに孔子の教えとはズレが生じています。孔子は、「民衆が礼儀と道徳を身につけ、正しい心をもつよう努力すれば国はよく治まる」との考えです。孟子は、「支配者が正しくなければ国(民衆の道徳は)は乱れる」と考えます。どちらも君主政治が前提ですが、孔子の場合は、君子のためにあるのが民衆です。孟子は、君子は民衆のために存在していると捉えています。この考え方が、次篇の離婁篇にある「経世済民」につながっていきます。

つづく (3月15日号、第2回「孟子」を読むとあるのは第3回の誤りでした。)



次回の新聞送付作業は4月11日(火)午後1時半から民主会館2階で行います。前回お手伝いくださった方です。

石川 小林 和
小曾 田 和
竹内 竹内 袈